

---

# 僕の目がない理由

浅葉りな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕が目がない理由

### 【コード】

N2830C

### 【作者名】

浅葉りな

### 【あらすじ】

「バイオリン」というお題で描いたショートショートです。

僕には、両目がありません。眼球が納まるべきその場所には、暗い穴がぽっかりと口を開けているのです。

昔、僕の家の際には、麗音姉さんが住んでいました。麗音姉さん早くにりょうしんを亡くしたのですが、そうとは思えないほど明るいい人でした。きれいな人でした。

麗音姉さんはバイオリンが上手で、頼むとよく弾いてくれました。僕は麗音姉さんと、姉さんのバイオリンが好きでした。

けれどもある日、麗音姉さんが事故に遭いました。僕は見ていません。なにもできず。

バイオリンケースと姉さんが、おもちゃみたいに飛びました。地面に叩きつけられた姉さんは、体が変わるふうに曲がっていました。バイオリンはケースから出て、地面に転がっていました。弦は切れ、胴体も折れていました。けれども、バイオリンも姉さんも、とても美しかったのでした。

姉さんは病院に運ばれました。でも、手遅れでした。即死だったそうです。

麗音姉さんの繊細な指は、もう弦を押さえることはありません。弓をすべらすことはありません。

それがただただ悲しくて、僕は泣きました。泣き続けました。僕は悲しいことにまだ子供でした。そのせいか、僕の目はとけてしまいました。流れてなくなってしまうました。

そういうわけで、僕には目がないのです。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2830c/>

---

僕が目がない理由

2010年10月17日03時18分発行